

5 都市基盤分野

やすらぎと快適さのある住みよいまち

施策 5-1

魅力ある街並みの形成

【めざすまちの姿】

住む人が誇りや愛着を持ち、訪れる人が白河の歴史・伝統文化・自然を体感できる、魅力ある街並み景観が形成されています。

【めざす姿の成果指標】

指標名	単位	現状値 (平成24年度)	目標値 (平成29年度)	方向性
①景観形成セミナーや歴史まちづくりシンポジウム等への参加者数	人	100	120	増加を目指す
②景観まちづくり協議会数	件	3	6	増加を目指す
③景観協定地区の認定地区数	地区	2	5	増加を目指す
④景観協定地区内の建築物等の修景に対する助成件数	件	6	20	増加を目指す

【現状と課題】

- 足元の歴史文化資源に光を当て磨いていくため、白河市では平成23年に景観条例及び景観計画を施行し、また、歴史的風致維持向上計画を策定して国認定を受け、現在これらに基づく各種の施策を展開しています。
- 美しく、優れた景観は、街全体のイメージを向上させ、市民の街への愛着をはぐくむものです。
- 市民がいつまでも住み続けたい、住んでみたいと思える個性的な街となるためには、本市の特色である自然環境や歴史・文化を生かした景観形成を、市民や企業、NPO等と協働して推進する必要があります。
- 景観計画や歴史的風致維持向上計画、中心市街地活性化基本計画に基づく施策の推進により、美しい街並み形成に対する市民意識が醸成されてきています。
- 中心市街地の空洞化や歴史的建造物等の老朽化、東日本大震災での被災等に伴う歴史・文化資源の解体が進み、これまで取組んできた足元の資源を生かしたまちづくりに大きな支障を及ぼしています。
- 街並み景観に対する市民意識のより一層の醸成や取組みの成果が効果的に多方面に波及するような景観形成を推進する必要があります。

【主要な取組み】

取組み		内容
①	自然景観や歴史的街並み景観の保全	歴史的風致維持向上計画に基づき、地域に残る歴史文化資源を保全・活用するとともに、景観計画及び景観形成ガイドラインの方針に基づく歴史と景観を生かした白河らしい街並み形成に努めます。
②	景観形成に関する啓発の推進	景観形成や歴史まちづくりのセミナー等を継続的に開催し、より一層の市民意識の向上を図ります。 個々の地区で展開されるまちづくり運動を有機的に結びつけるため、各地区における活動に関する情報を収集・共有する場を設けることで、市民主体の景観形成に関するまちづくりを積極的に支援します。
③	魅力ある景観の創出	市民が主体となる景観まちづくり協議会の設立と景観協定の締結を推進するとともに、その後の活動を支援することで、地域の意向を十分に反映した魅力ある景観の創出に努めます。

【めざすまちの姿の実現に向けた“協働の取組み”】

取組み		主体	期待される波及効果
①	主体的かつ積極的に景観づくりに関する活動に参加します。	市民、事業者、NPO	主要な取組み：①、③ 成果指標：①、②、③、④
②	関係機関との連携を図り、市民・事業者への啓発・情報発信により意識向上を図るとともに、市民活動を支援します。	市、NPO	主要な取組み：②、③ 成果指標：①、②、③

【主な部門別計画】 白河市景観計画
白河市歴史的風致維持向上計画

施策 5-2

快適な道路網の整備

【めざすまちの姿】

幹線道路の整備が進み、市内及び市外との円滑な交通が確保されています。
生活に密着した道路・橋りょうが整備され、市民が快適に暮らしています。

【めざす姿の成果指標】

指標名	単位	現状値 (平成24年度)	目標値 (平成29年度)	方向性
①道路舗装率（市道）	%	69.2	75.0	増加を目指す
②スマートインターチェンジ利用 台数	台/日	2,400	2,400	現状レベル を維持する
③道路改良率（市道）	%	58.0	62.0	増加を目指す
④道路維持管理上の事故件数 (市の管理上の瑕疵によるもの)	件	0	0	現状レベル を維持する

【現状と課題】

- 道路は、地域住民が生活する上で根幹をなす施設であり、その維持・向上は極めて重要となっています。
- 国・県道については、関係機関に対して整備促進を働きかけることで、国道4号白河拡幅において4車線化が進められているほか、県道社田浅川線の堀之内バイパスや県道高萩久田野線舟田バイパスが完成し、供用を開始するなど、着実に整備が進められています。
- 都市計画道路については、都市における交通体系を確立するため、早期の整備が望まれています。
- 身近な生活道路についても、拡幅改良や舗装、歩道の整備等に取り組んでいます。
- 東日本大震災の際には、道路網が寸断されたことにより、交通が阻害され、物流が滞るなど、市民生活に大きな影響を及ぼしたことから、道路利用者が安全かつ円滑に移動でき、災害発生時でも道路機能の維持・確保を図ることが求められています。
- 老朽化した橋りょうについては、道路や河川の整備に合わせながら、必要に応じて修繕を実施しています。今後も橋りょうの延命化について検討しながら、計画的な整備を図る必要があります。

【主要な取組み】

取組み		内容
①	生活道路の整備と維持管理	良好な道路環境を確保・維持するため、生活道路の点検等を継続して実施するとともに、緊急で即効性のある改修・補修や歩道整備など、必要に応じ適切な措置・対策を講じます。
②	主要幹線道路の整備	長期未着手都市計画道路の見直し路線については、早期に計画を決定・変更し、幹線道路の整備促進を図ります。 国道と市内外を結ぶ重要な路線である県道については、交通の利便性を向上させるため、県との連携を図り、改良及び整備促進に努めます。
③	広域幹線道路の整備促進	国・県等の関係機関に対し、災害時の緊急輸送路としての機能保全・強化が重要なことから、円滑な通行や安全性を確保するため、国道4号の4車線化や国道294号白河バイパスなどの早期整備に向けた働きかけを行います。
④	安全で快適な歩道の整備	歩行者系街路のネットワークのさらなる充実を図るため、その整備促進に努めます。 子どもや高齢者、障がい者などに配慮した歩道の整備とバリアフリー化に努めます。
⑤	橋りょうの整備	老朽化した橋りょうの修繕を引き続き行うとともに、延命化を図る整備の計画的な実施に努めます。

【めざすまちの姿の実現に向けた“協働の取組み”】

取組み		主体	期待される波及効果
①	地域環境の保全や安全な通行に寄与するため、道路や側溝の維持管理に努めます。	市民、団体	主要な取組み：① 成果指標：①
②	身近な生活道路の清掃や緑化等の活動を行うなど、沿道の美化に努めます。	市民、団体	主要な取組み：④ 成果指標：-

【主な部門別計画】 (空白)

施策 5-3

良好な居住環境の整備

【めざすまちの姿】

歴史のある中心市街地を基点に都市機能が集積し、周辺には里山に囲まれたのどかな田園が広がる自然と人々の生活が上手に調和した都市が形成されています。また、環境負荷の少ない住宅やバリアフリー化や耐震化による良質な住宅ストックが形成されていることに加え、災害につよい都市基盤や情報基盤が整備されています。

【めざす姿の成果指標】

指標名	単位	現状値 (平成24年度)	目標値 (平成29年度)	方向性
①都市交流施設の入館者数	人	393,500	(調整中)	増加を目指す
②市営住宅の入居率（入居者/管理戸数）	%	79.0	85.0	増加を目指す
③地デジ難視聴の解消率（良視世帯/全世帯）	%	91.5	100	増加を目指す

【現状と課題】

- JR白河駅を中心とする中心市街地は、鉄道やバスなどの公共交通機関が早くから整備され、県南地方の商業・業務の中心地として賑わってきましたが、都市構造の変化や車社会の進展、郊外型大型小売店の進出により中心市街地の機能低下が進んでいます。
- 核家族など家族形態や生活スタイルの変化により、従来の良質な地域コミュニティが希薄化し、地域の担い手不足が深刻化していることから、人と人との交流等を通して、自分が住んでいる地域及び都市全体の魅力や問題点を再認識することが望めます。
- ふるさと白河に愛着が持てるよう、市民が交流できる場や機会を増やし、市民図書館に見られるようなまちなかの交流拠点をコンパクトに集積し、安全・安心な回遊性のある歩行空間を有した誰もが快適に感じる都市構造に変えていく必要があります。
- 高度情報化社会の進展にあわせ、市内全域で光ファイバによる超高速ブロードバンド・サービスを受けられる環境が整備され、情報格差は是正されていますが、地上デジタル放送については、難視聴地区の解消が課題となっています。
- 「白河市公営住宅ストック総合活用計画」に基づき、既存市営住宅の適切な維持管理や老朽市営住宅の用途廃止によるコスト削減に加え、民間建築等の適切な指導と誘導を図っています。今後は、市営住宅の入居世帯が高齢化する傾向にあるため、住宅のバリアフリー化や福祉施設との連携にも配慮した市営住宅の有効活用が求められています。

【主要な取組み】

取組み		内容
①	市街地の整備	<p>豊かな自然と歴史、文化が共生したまちづくりを推進するため、既に整備された都市基盤を有効に利用しつつ、生活者の視点にたった安全で暮らしやすい居住環境の整備をさらに進め定住人口の増加を図ります。</p> <p>交流人口の拡大のため、市民文化会館等の都市交流施設のまちなか立地や歴史的文化遺産を活用した観光客向けの歩行系街路ネットワークの構築を図ります。</p> <p>民間等による開発が見込まれる地区については、市民や民間事業者との合意形成を図り、自然やまちなかの景観等に配慮した秩序ある市街地を形成するため、開発行為指導要綱に基づき、適正な規制と誘導を図ります。</p>
②	居住環境の充実	<p>市民の意見や防災の意識を取り入れながら、歴史・文化的な城下町の都市構造の中に、人にやさしいユニバーサルデザインのまちづくりの視点を加えることで、居住環境を向上します。</p> <p>市内の若年層や田舎暮らしを希望する定年退職者層、被災者にも範囲を拡大し定住を促進するとともに、除染により居住環境における安全の回復と安心の確保を図ります。</p>
③	市営住宅の整備	<p>国の様々な制度を活用し、市の財政負担の軽減・平準化及び民間活力の導入などの観点を踏まえ、「公営住宅長寿命化計画」に基づき、市営住宅の新規供給から既存ストックの建替えや改修を中心とした有効活用を図り、住宅セーフティネットとしての施策効果を高めます。</p>
④	情報通信基盤の整備	<p>地上デジタル放送の難視聴地区において、恒久的対策を講じるとともに、既存の手法で解消できない地区については、国等とともに新たな手法の検討を進めます。</p>

【めざすまちの姿の実現に向けた“協働の取組み”】

取組み		主体	期待される波及効果
①	自分たちの住んでいる地域への愛着を深め、地域のルールづくりや都市環境を向上させる活動に積極的に参加します。	市民、団体	<p>主要な取組み：①、②</p> <p>成果指標：-</p>

【主な部門別計画】 白河市都市計画マスタープラン
 白河市中心市街地活性化基本計画
 公営住宅ストック総合活用計画

施策 5-4

公共交通の充実

【めざすまちの姿】

公共交通ネットワークを充実することにより、公共交通機関の利用者が増えるとともに、環境に配慮した地球にやさしい、安全で快適な移動手段が確保されています。

【めざす姿の成果指標】

指標名	単位	現状値 (平成24年度)	目標値 (平成29年度)	方向性
①市内循環バス・地域巡回バスの年間利用者数	人	51,000	65,000	増加を目指す
②新白河駅の利用者数（一日平均）	人	2,504 (平成23年度)	2,510	現状レベルを維持する
③白河駅の利用者数（一日平均）	人	579 (平成23年度)	580	現状レベルを維持する

【現状と課題】

- 地球温暖化が社会的な問題となっている中で自家用車から公共交通機関への転換を図り、環境負荷を軽減させることが求められています。
- バス交通については、高齢者や運転免許を持たない方などの日常生活を支える移動手段として不可欠なものとなっています。しかしながら、これまでの急速な自家用車の普及とともにバス利用者が減少しております。
- バス利用者拡大に向け、車両設備のバリアフリー化や利用実態の把握に努めるとともに、市民のニーズを的確に捉えながら、公共交通ネットワークの充実を図り、市民が安全で快適に利用できる公共交通の実現に努める必要があります。
- その他鉄道や航空といった公共交通機関については、利用者の利便性向上を図るため、鉄道ダイヤの充実や駅施設のバリアフリー化、航空路線の維持・拡充等について関係機関へ働きかけていく必要があります。

【主要な取組み】

取組み		内容
①	バス交通の確保	日常生活に不可欠な生活路線については、バス事業者や近隣市町村等と協議しながら、既存の運行経路や運行形態について継続的に見直しを行い、効果的で効率的なバス交通の確保に努めます。
②	バス交通の利便性の向上	公共施設、駅、病院、中心市街地等を結ぶ交通アクセスとしての確保に努めます。 車両設備のバリアフリー化を図るとともに、市民のニーズや道路状況の変化に対応した運行に努め、安全で快適に利用できるバス交通の実現を図ります。
③	鉄道・空港の利活用の促進	鉄道ダイヤの充実、駅施設のバリアフリー化、福島空港の航空路線の維持・拡充等について関係機関への要望活動を行い、利用者の利便性の向上を図ります。

【めざすまちの姿の実現に向けた“協働の取組み”】

取組み		主体	期待される波及効果
①	公共交通ネットワークを充実し、利用者が快適に利用できるよう努めます。	事業者、関係機関	主要な取組み：①、②、③ 成果指標：①、②、③

【主な部門別計画】 白河市地域公共交通総合連携計画

施策 5-5

安全で安定した水の供給

【めざすまちの姿】

持続可能な水道事業の構築により、安全で安心して飲める水道水が安定して供給されています。

【めざす姿の成果指標】

指標名	単位	現状値 (平成24年度)	目標値 (平成29年度)	方向性
①水質基準適合率	%	100	100	現状レベルを維持する
②管路の耐震化率	%	15.6	17.0	増加を目指す
③給水収益に対する企業債残高の割合	%	352.6	300.0	減少を目指す

【現状と課題】

- 人口減少や社会経済情勢の変化などにより、水需要が年々減少し、水道料金の収入も減少傾向にあります。
- 水の安定供給を行うため、老朽管や老朽施設の改良等を計画的に進めるとともに、災害に備え、施設等の耐震化、危機管理体制の強化が求められています。
- 水道水の安全性に対する不安を解消するため、維持管理と検査の徹底が必要です。
- 後年度における施設の更新事業に備えるため、企業債の発行を抑制して企業債残高を減らし、健全で安定した水道経営を図ることが必要です。

【主要な取組み】

取組み		内容
①	安全・安心な水道水の供給	<p>水質基準に適合する水質を守るため、定期的な検査を継続していきます。</p> <p>放射能に対する不安を解消するために、検査結果を広報紙等に掲載し、市民への情報提供を行います。</p>
②	水の安定供給の向上	<p>計画的な施設の耐震化や管路のループ化により水道施設の安定した機能を確保し、災害や事故の被害を最小限に抑える減災対策を実施します。</p>
③	健全な水道経営の推進	<p>水道事業経営が持続可能となるよう、事業の統合、経費の削減、施設のスリム化などにより、経営の効率化・健全化を進めるとともに、公平で適正な費用負担と合理性を兼ね備えた料金体系の構築を図ります。</p> <p>特に、後年度における施設の更新事業に備えるため、企業債の発行を抑制して企業債残高を減らすよう努めます。</p>

【めざすまちの姿の実現に向けた“協働の取組み”】

取組み	主体	期待される波及効果
① 水の大切さを理解し、水の有効利用と水道料金の期限内の納付に努めます。	市民、事業者	<p>主要な取組み：③</p> <p>成果指標：③</p>

【主な部門別計画】 白河市水道事業整備基本計画

施策 5-6

衛生的で快適な下水道の整備

【めざすまちの姿】

下水道の整備が計画的に進むことで、より健康で快適な市民生活と河川や湖沼など公共用水域の水質が守られています。

【めざす姿の成果指標】

指標名	単位	現状値 (平成24年度)	目標値 (平成29年度)	方向性
①汚水処理人口普及率	%	83.4 (平成23年度)	88.9	増加を目指す
②汚水処理人口水洗化率	%	89.3 (平成23年度)	92.9	増加を目指す

【現状と課題】

- 市民の快適な暮らしを支えるとともに、河川等の水環境の水質保全を図るため、下水道の整備を計画的に進める必要があります。
- 設備の適切な維持管理のため、公共下水道の長寿命化計画策定や農業集落排水事業の機能強化に取り組んでいます。
- 公共下水道及び農業集落排水施設への速やかな接続、浄化槽市町村整備推進事業への加入など、水洗化の普及促進をさらに進めていく必要があります。

【主要な取組み】

取組み		内容
①	公共下水道の整備と維持管理	市民の衛生的で快適な暮らしを支えるため、下水道事業計画や長寿命化計画に基づき、施設を整備するとともに、適切な維持管理に努めます。
②	農業集落排水施設の整備と維持管理	農業用排水の水質汚濁の防止や農村地域の生活環境の改善を図るため、農村下水道である農業集落排水施設の整備と発生活泥の資源循環を推進するとともに、施設の維持管理を充実します。
③	合併処理浄化槽の設置整備の促進	公共用水域の水質保全を図るため、公共下水道や農業集落排水による集合処理の適さない地域においては、市町村設置型による合併処理浄化槽の整備を促進します。
④	水洗化の普及促進	広報紙等を通じて、公共下水道及び農業集落排水施設への速やかな接続を促し、水洗化の普及に努めます。

【めざすまちの姿の実現に向けた“協働の取組み”】

取組み		主体	期待される波及効果
①	公共下水道及び農業集落排水施設への速やかな接続に努めます。	市民、事業者	主要な取組み：①、②、④ 成果指標：①、②
②	公共下水道、農業集落排水区域外においては、合併処理浄化槽の設置と適正な維持管理に努めます。	市民、事業者	主要な取組み：③、④ 成果指標：-

【主な部門別計画】 白河市生活排水処理基本計画